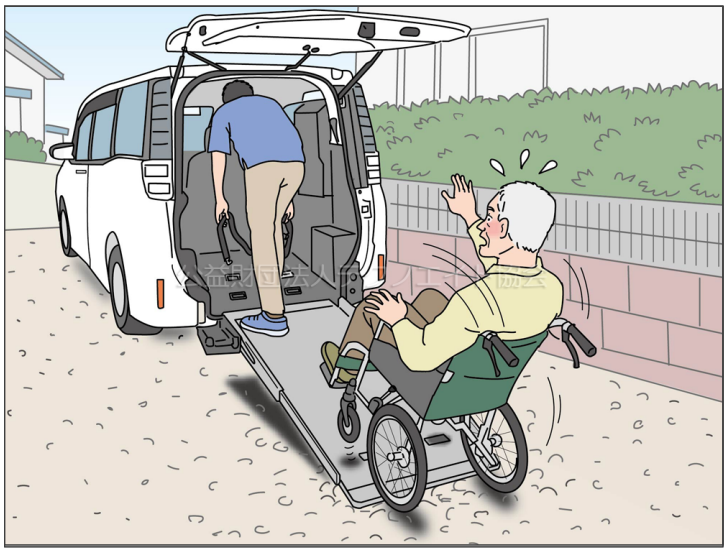
Case：413

福祉車両のスロープ上に前輪を乗せて目を離したら後方に転倒しそうになる

場面の説明

送迎の際、スロープに前輪のみを乗せた状態でベルトを取りに車内に入ったところ、車いすがバランスを崩し後方に転倒しそうになる



利用シーン	外出 乗り物
主な利用場所	車内
介護保険の種目	ー
分類コード(CCTA95)	120903 (ニーリングカー)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

車いすの後方への転倒は様々な場面で起こっています。福祉車両の後方スロープは車種ごとに傾斜角度が異なり、傾斜の強いタイプでは後方への転倒リスクが高まります。車いすの大きさや種類によっても転倒しやすさは異なりますが、どのような車種、車いすであっても、その場を離れる場合は平坦な場所に留め置くことが原則です。また、このような事態を防ぐ点からも送迎計画には余裕を持ちたいものです。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：スロープ端部に車いすの前輪を載せておいた方が効率良く乗り込むことができると思った
人：送迎計画に余裕がなく作業効率を優先させてしまった
モノ：スロープの傾斜が大きいタイプの福祉車両であった
モノ：車いすが体格に対し小型で、後方に転倒しやすい重心バランスであった
管理：車両への乗り込みに対する手順が決められていなかった

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.